

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

歴史とひのきの薫る里づくり計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県及び長野県木曾郡南木曾町

## 3 地域再生計画の区域

長野県木曾郡南木曾町の全域

## 4 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現況

南木曾町は総面積の94%を森林が占めており、木材関連産業及び観光が基幹産業となっている。しかし、林業の衰退により昭和60年に203人を数えた就労者が平成27年には69人とこの30年で67%の急激な減少となっている。

安心して働き続けられる職場が減少し、若年層の人口流出が顕著となり、人口減少に歯止めがかからない。昭和36年の合併時には10,771人あった人口が平成27年国調では、4,317人と約60%の減少となり、さらに40年後には1,837人となる人口ビジョン（社人研推計）がしめされ、消滅の危機と直面している。

### 4-2 地域の課題

地形は急峻で、急傾斜地が多いため、道路が狭隘、急カーブ、急勾配である。また、上下水道などのライフライン、情報通信環境も都市部に比べて大幅に劣っており、地域整備作業、祭礼、農作業等担い手確保が深刻となり、限界集落の危機に瀕している。

地元高校生へのアンケートより、約65%が南木曾町以外で就職したいと考えていて、その理由の半数は「働き場がないから」と回答している。

そこで、町では平成27年12月に南木曾町地方創生総合戦略において、観光立町の取り組みを計画し、交流人口の拡大と雇用創出、定住化促進を推進している。

### 4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、町内・郡内の観光地を結ぶ町道と林道を一体的に整備することにより、若い世代の雇用創出のための観光の振興や林業の振興を図り、併せて当地域を訪れる観光客の増加や雇用の創出・人口流出の防止・定住化を図る。また、さらなる活性化を目指し関連事業として、ろくろ活性化事業、町有林・民有林の利活用の促進事業、インバウンド（外国人観光客）資源活用事業、結婚・出産・子育て環境整備事業、地域バス・乗り合いタクシーの運行事業を実施する。

これらの結果、住民の利便性の向上や災害時の孤立化への不安の払拭も図られ、

定住に向けた環境が整うことが期待される。

また、リニア中央新幹線開業後には、長野県・岐阜県それぞれの中間駅から1時間という利点を活かし、観光産業や農林業の活性化を図り、雇用の創出・人口流出の防止・UIターン者の定住化と交流人口の拡大を目指すものである。

(目標1) 年間観光客数

267,600人(令和2年) → 400,000人(令和9年)

町内外の観光拠点を結ぶ道路整備や産業観光基盤整備により、南木曾町の代表的観光地「妻籠宿」と周辺の観光拠点相互の連携を図ることにより観光客の増加を図る。

(目標2) 森林整備面積の増加

28.6ha(平成30年) → 32.0ha(令和9年)

林道整備により間伐の促進を図るとともに、地場産業である林業の雇用拡大、担い手育成に努める。また、保安林の整備も進むことから、山林の荒廃防止が図られる。

(目標3) 国有林レクリエーション年間利用者数

10,000人(令和3年) → 15,000人(令和9年)

南木曾町の約70%を占める国有林を林野庁と協力して国有林資源の有効活用を進める。近年の山登り、森林浴等を通じて交流人口を増やし、観光客の増加さらに定住に向けた取り組みを図る。

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

南木曾町は、木曾川に沿って国道19号が幹線道路として町内を南北に中京圏と長野県内を結び、国道256号が東西に長野県飯田市と岐阜県中津川市のリニア中央新幹線中間駅を結ぶ地域にある。今後、広域交通ネットワークの重要性が高まる地域である。

しかし、町道・林道の整備が遅れており、極めて急峻で狭隘な山岳地帯であるため、災害時などの代替道路のない孤立化の不安が残る地域である。実際に平成26年7月の豪雨災害では国道19号が約3日間通行止めとなり、地域の流通が停止など、住民生活への影響が確認された。さらに、観光客はの観光地の内一箇所にのみ立ち寄る傾向があるなど、地域全体としての観光地の連携が十分図られていない。

そこで、「妻籠宿」「桃介橋」「柿其水路橋」や森林資源の豊富な「柿其溪谷」へ通じる町道、林道を整備することで、観光地に連動性を持たせ、観光客数の増加と、滞在型観光と地域住民との交流を促進し地域のにぎわいを創出する。加えて、人口流出の防止、UIターン者等の就労促進として、林業の雇用拡大を目指すことで、森林整備と観光産業の相乗効果が発揮できると考えている。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

### (1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。  
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・町道 道路法に規定する町道に認定済み。( )内は認定年月日。  
川向椰野線 (平成21年1月5日)  
大原線 (平成21年1月5日)  
与川線 (平成21年1月5日)
- ・林道 森林法による木曾谷森林計画書(平成29年策定)に路線を記載。  
秋葉山線  
越野線

#### [施設の種類]

- ・町道 (川向椰野線)
- ・町道 (大原線・与川線)
- ・林道 (秋葉山線・越野線)

#### [事業主体]

- 長野県、南木曾町
- 南木曾町
- 長野県、南木曾町

#### [事業区域]

- ・南木曾町

#### [事業期間]

- ・町道(過疎代行) 令和3年度～令和9年度
- ・町道 令和3年度～令和7年度
- ・林道 令和4年度～令和7年度

#### [整備量及び事業費]

- ・町道 0.748 km、林道 0.740 km
- ・総事業費 2,302,960 千円 (内交付金 1,143,005 千円)  
町道 2,255,000 千円 (内交付金 1,127,355 千円)  
林道 47,960 千円 (内交付金 15,650 千円)

#### [事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

(令和/年度)	基準年 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
指標1 観光地等までのアクセス改善								
伝建地区 近代化遺産 歴史遺産 自然景勝地 妻籠宿～ 桃介橋 ～ 柿其水路橋 ～ 柿其溪谷 (第2P) (天白公園下P) (橋下) (吊り橋P)	25分	25分	25分	25分	25分	25分	25分	20分
伝建地区 日本遺産 木曾八景 自然景勝地 妻籠宿～ 中山道 ～ 与川の秋月 ～ 与川道	30分	29分	29分	29分	29分	28分	28分	28分

(第2P) (三留野宿) (古典庵) (向田P)									
指標2 林道安全対策									
林道狭小箇所解消	4箇所	4箇所	3箇所	2箇所	1箇所	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所

毎年度終了後に町の職員が必要な走行調査（3回走行の平均値）を行い、速やかに状況を把握する

### [事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

町道及び林道を一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べて、効率的かつ効果的な施設配置が可能となり、住民の地域内・地域間の移動の利便性向上や観光地間の連携、林業の振興といった地域再生の目標達成に資するとともに、日本遺産に認定された木曾地域の活性化、リニア開業に向けた基盤整備にも資する先導的な事業となっている。なお、町道川向柳野線は南木曾町国土強靱化地域計画（令和3年策定）にも位置付けている。

(その他の理由)

本事業は、上記の政策間連携とあわせて、地域活動の活性化、観光の振興という観点でその他の事業も行うことから、先導性が高い事業となっている。

## 5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「歴史とひのきの薫る里づくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 町有林・民有林の利活用の促進事業

内 容 山の安定化や緩衝帯整備による有害鳥獣被害の軽減のため、町有林の整備を鋭意進めるとともに、民有林の森林整備の強化を推進する。安定した経営を計画的に支えるために森林組合等と連携し高性能林業機械の導入の検討及び林業大学校などへ雇用の情報発信による技術者の確保を図る。さらに、関連産業の強化とマーケティングに取り組み、間伐材の薪ストーブへの活用など未活用資源の活用方法を研究、新たな林業システムの構築を図る。（南木曾町単独事業）

実施主体 南木曾町

実施期間 令和3年4月～令和10年3月

#### (2) 観光資源活用事業

内 容 妻籠宿・中山道などの歴史・文化資源を活用した観光振興と市場

拡大の取組みを並行して実施することで、町特有の魅力ある雇用を創出し、地元学生や UI ターン者の仕事の選択肢を拡げ定住・移住促進に取り組む。（南木曾町単独事業）

実施主体 南木曾町

実施期間 令和 3 年 4 月～令和 10 年 3 月

### （3）結婚・出産・子育て環境整備事業

内 容 子育て世代の結婚や出産の希望を叶える出会いの場の提供や妊娠出産に対する心身、経済的不安を軽減し、子どもを持ちたいと希望する人が子供を持てる環境整備をすすめる。さらに、出産後も乳幼児の一時預かりや、おやこのひろば、子育て支援補助金などの事業を通じて、健やかな子どもの育成と親の負担軽減を図る。（南木曾町単独事業）

実施主体 南木曾町

実施期間 令和 3 年 4 月～令和 10 年 3 月

### （4）地域バス、乗り合いタクシーの運行事業

内 容 幹線の主要バス路線の運行、小中学校スクールバスへの混乗による地域バス事業及び予約型乗合タクシー事業により山間地区と町部への交通手段を確保し、高齢化に伴う買い物弱者、交通弱者、医療弱者への移動手段の維持を図る。（南木曾町単独事業）

実施主体 南木曾町

実施期間 令和 3 年 4 月～令和 10 年 3 月

### （5）町営住宅の建設事業（UI 住宅・地域優良賃貸住宅）

内 容 UI ターン者や若者向けのユアアイ住宅や地域優良賃貸住宅を計画的に建設することにより、UI ターン者や結婚による世帯分離者など持ち家を持たない世帯が引き続き快適に安心して暮らすことができる環境を整備を図る。（南木曾町単独事業）

実施主体 南木曾町

実施期間 令和 3 年 4 月～令和 10 年 3 月

## 6 計画期間

令和 3 年度～令和 9 年度

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4 に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に長野県及び南木曾町が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、以下の「指標とする数値の収集方法」に掲げるデータを用い、中間評価、事後評価の際には、「指標とする数値の収集方法」に掲げるデータを集計するなど、行うことにより評価を実施する。

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	令和2年度 (基準年度)	令和5年度 (中間年度)	令和9年度 (最終目標)
目標1 年間観光客数	26.76万人	30.96万人	<u>40.00万人</u>
目標2 森林整備面積の増加	(平成30年度) 28.6ha	30.0ha	<u>32.0ha</u>
目標3 国有林レクリエーション年間利用者数	1.0万人	1.15万人	<u>1.50万人</u>

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収集方法
年間観光客数	長野県の観光地利用者統計調査より
間伐実施済面積	南木曾町の毎年の公表データより
国有林レクリエーション年間利用者数	南木曾町の毎年のデータより

- ・ 目標の達成状況以外での評価を行う内容
  1. 事業の進捗状況
  2. 総合的な評価や今後の方針

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット（南木曾町のホームページ）により公表する。